



ID: 1344

科目名	建築倫理【26年度生用】			コード			
英語表記	Engineering Ethics in Architecture						
担当教員名	多賀 直恒			年度	平成26年度		
基準年次	4年次	開講期	前期	単位数	2		
授業形態	講義	授業形式	面前	履修形態	選択		
授業概要							
技術者倫理の基本的な考え方を、科学技術・法・倫理の三つの立場から具体的事例により解説をする。現代社会の様々な事例を取り上げながら建築設計・建築計画・建築施工の実務上の社会条件の違い、組織と個人の関係における日本の社会システムの実情を踏まえ、理解が得られるように解説される。4年間で学習する建築学の全体をカリキュラムに即して建築設計者・建築技術者の職務上の倫理の必要性と重要性を分かりやすく解説し説明する。							
到達目標							
(1) 建築活動に倫理教育がなぜ必要なのか 建築設計・建築施工に必要な倫理教育の社会的背景 (2) 信頼関係と技術者との行動選択 技術者の倫理規定と原稿の倫理規定 (3) 倫理教育は建築設計活動と行為を変えるか							
授業計画							
第1回	技術者倫理の基本的考え方、科学技術・法・倫理						
第2回	現代都市の生活の中で建築家、建築技術者が考えるべき人間性と倫理観						
第3回	責任の規準、責任の枠組、責任への障害 建設会社・企業による談合						
第4回	企業統治の組織の健全運営と社会的不正に関する告発						
第5回	エレベーター事件から見る高層建築物の安全管理に関する技術者の責任意識						
第6回	住宅のリフォーム詐欺 住宅の性能評価と一般住民への説明責任						
第7回	水俣病による有害物質の存在と技術者の管理責任						
第8回	リスクの識別推定における不確実性と価値判断、リスク責任						
第9回	回転ドア事件 責任ある技術者と組織上の対応、経営者・技術者の関係						
第10回	事例による技術者倫理の基本の理解と学習の到達度の検証						
第11回	耐震偽装事件の原因と防止対策の困難さ 自治体・企業・組織・個人						
第12回	災害時の組織の対応と倫理から考えられる課題 教育機関の災害時の職員学生に対する事例						
第13回	環境倫理としての技術者と環境問題の複雑多様な構造に対する総合的統治機能の必要性						
第14回	技術者の組織内の行動と倫理 企業の不祥事と内部告発						
第15回	日常生活の中で問題となる技術者としての倫理を考える						
評価方法と基準			評価項目と割合(%)				
各学習目標の到達度を測るための問題を出題する。評価基準は、期末試験のための総合的な問題とする。			出席	授業態度	レポート	期末試験	その他
				30	50		20
授業外学習			テキスト、教材				
講義の内容に関する小論文を課す			講義内容を学習する資料が授業前にHPで公開される。				
参考書			受講生へのメッセージ				
柴山知也: 建設技術者の倫理と実践、丸善、平成13年平成10年谷垣昌啓監修: 技術者倫理入門オーム社平成15年			我々の生命と生活の安全は、技術者の手にゆだねられているといってもよい。技術者の存在は、直接公衆には見えてこない。個人として直接社会に責任を負う仕組みと専門職業に必要とされる事項を、社会的に具体例を取り上げて学習する。				
キーワード							
技術者倫理・企業統治・談合・内部告発・環境倫理・耐震偽装・リフォーム詐欺							